

# どの子にも豊かな労働認識の基礎を 「田んぼで働く人（2年生）」をとりあげて

奈良教育大学付属小学校 教諭 中 窪 寿 弥

## 1. 日本の食生活を支える米作り

子どもの暮らしに目を向けると、あふれるばかりの商品に囲まれ、消費中心の生活になっていて、その商品は、どこで、だれによって、何からどのようにして作られたのかという生産労働が見えにくい状況になってきている。

国民の食生活をみても、食料自給率が低下し（1991年度の統計で46%、穀物自給率は同年度で29%）、海外の食料生産に依存する割合が年々高くなってきている。ますます暮らしから生産に関わる労働の場が遠ざかりつつあるといえるだろう。

こんな状況の中では、教育の中で意図的に子どもたちに生産労働を教える必要性を強く感じる。ところが新学習指導要領では第3次産業が重視されてきており、一層生産労働が子どもにとって“ブラックボックス化”してきている。

生産労働が見えにくい現代社会で、自然に働きかけながら、食料となる稲を育て米を収穫するという米作りの仕事は最も基本的な労働の一つである。米は、計画的に育てられ、貯蔵や分配も簡単で、調理しやすく栄養もあり、味もおいしいということで、主食として二千年にわたって生産され続けてきた。日本人の食生活の変化に伴って、米を食べる機会も少なくなってきているといわれるが、一方で学校給食に取り入れられたりして、子どもが一度も米を口にしないという日はまず少ないだろう。子どもにとってもっとも身近な食生活の中であって、日本人の食料源として米がどのようにして作られているのかこの題材でしっかりと教えたい。

## 2. 米作りの学習を小学校でどう積み上げるか

米作りに関わる社会科の学習は、私の学校では以下のような教育課程を組んで積み上げている。

### 2年生（生活科）

- ・「わたしたちの町」「植物を育てよう」という単元の中で、「のうかのしごと」「しょくぶつのはたね（イネの種とイネの一生）」という題材を設けている。
- ・社会認識に関わる内容では、ある特定の農家を取りあげ、その農家への見学、聞き取りなどを通じて、「土づくり、なえづくり」「田植えのしごと」「1粒のたねもみを千粒の米にふやすおじさんのしごと」「田んぼカレンダーづくり」などの観点を設け、教材化している。

### 3年生

- ・「鹿野園台地（全10時間）」という題材を設けている。
- ・奈良市の農業地域の一つとして鹿野園台地の人々のくらしを理解させること、台地としての鹿野園の地形的特色をとらえさせること、鹿野園台地の農業用水は主に岩井川と溜池によることをわからせることなどがねらいである。

### 4年生

- ・「奈良盆地の米作りと水（13時間）」という題材を設定している。
- ・米作りを中心として野菜作りもさかんな盆地の農業の特色をとらえさせること、昔から盆地では米作りに必要な水が不足してきたことをわからせること、盆地の農民は多くの溜池をつくる

ことによって不足する水をおぎなってきたことをわからせること、昔から吉野川に水を求めていた盆地の農民の願いが吉野川分水としてかない、今ではその水が盆地の広い地域に送られるようになったことをわからせることがねらいである。

#### 5年生

- ・「日本の農業（全28時間）」を設けている。
- ・日本の農民は狭い耕地で技術と品種の改良によって生産を高める努力をしてきたことをわからせること、わが国の農業生産の現状に気づかせること、日本の農業のかかえる問題（食生活の変化による食糧輸入、米価、兼業化と機械化および後継者問題、生産調整と転作、農業と化学肥料など）に気づかせ、これらの問題の背景を考えさせることなどがねらいである。

#### 6年生

- ・歴史学習の大切な観点の一つに、労働と生産が歴史を発展させてきたというとらえをし、特に前近代は「生産力の発展」を軸に学習し、その中でも米作りは重点がかけられている。
- ・例えば、「日本列島の人々と国の成り立ち」という単元では、「米作りをするムラ」という題材で、登呂のムラでは米作りが始められたことと、人々が定住し共同作業や役割分担を行ってムラをつくっていったことを理解させることが目標である。

このように学習内容を縦に並べてみると、生活科でどこまで米作りを教えるのかという問題は、小学校でどこまで米作りを教えるのかという問題と大きな関連があることに気づく。この実践では、学校の近くの小嶋さんという農家に何度も足を運ぶ中で、年間を通じて米を育てる仕事が、子どもたちはわかってくる。田おこしや田植え、稲刈りといった学習はそれぞれ個別の認識であるが、子どもたちはものをうみだし、ふやすという生活を支えている仕事の学習の中でこそ、生産と労働の基礎が認識できるようになるし、このような学習を低学年から積み上げる中で科学的な認識も培われていくと考える。

#### 3. 仕事を景観の移り変わりにつないで

米作りにかかわる仕事でぜひ子どもたちに見せたいものは、田おこし・苗づくり（モミまき）・水入れ・田植え・刈り取り・脱穀などである。仕事に使われる機械等も見せながら、これらの仕事と、田植えの前の田（第1次 草原から田んぼに）・田植えの後の田（第2次 田植え）・黄色く稲が実ったところの田（第3次 稲を育てるおじさん）・刈り取った後の田（第4次 稲刈り）というように田の景観の変化を重ね合わせながら取り組みをすすめてみた。

景観の変化では特に土と水の様子を注目させた。というのは、田植えなどの仕事は案外子どももよく知っているのだが、収穫を高めるための肥えた土と絶えず必要な（一時抜く時もある）水にかかわった仕事——田おこし・水入れ・代かき・あぜぬりなど——を知っている子どもは少ないのに、米作りにかかわる仕事のほとんどがこの土と水に関係した仕事だからだ。

米作りは、苗の育成から始まる。水田のかたすみの苗代にタネモミをまいて芽を出した苗はやがて田に植えられるが、最近では機械によって田植えされることが多くなり、田植え機に付ける専用のケースにタネモミをまきそのまま苗代で苗に育てることがふえた。子どもたちには、自分たちが食べている白米と、玄米・タネモミの違いも教えたい。

苗の茎の数が6～7本になる6月上旬頃、田に苗は2、3本ごとに植えられる。稲は成長するにつれて、茎の根元からつぎつぎと新しい茎が生まれるという株わかれ（分けつ）を7月の終わり頃まで続け、最後には30本近くに茎はふえる。田植えの時の稲の数と刈り取りの時の数の違いをおさ

えながら、茎をふやしながらか米粒もふやしていることを教えたい。

またこの頃には水も大量に必要になり、他の作物と違って水が常時と言っていいほど入り用なこともおさえておきたい。見学に行く田では、近くの能登川から水路を作り水が引かれているので、この水路の様子も合わせてしっかりと子どもたちに見せておきたい。

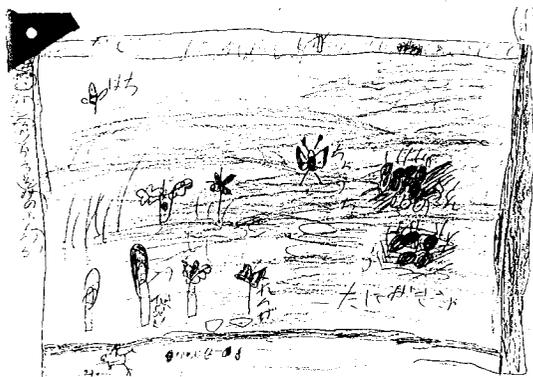
田にためられた水は、時々ザリガニやモグラなどによりあけられた穴からもれることがある。水が抜けないように、代かきの時にされたあぜぬりはその後も数日ごとにくりかえされる。畑とちがって、稲の育成に必要な多量の水を維持するための仕事も子どもたちに見せておきたい仕事である。

#### 4. 「田んぼはどこにあるの？」

4月24日、クラスの旗を先頭に田んぼはどこにあり、どんな様子になっているのかを調べるためにさっそく探検に行くことにした。

あぜ道に立ち、「田んぼはどこにあるの？」と聞くと、みんなはないと答えた。私は、びっくりして、「じゃあ、この前にあるのは何？」と一面にレンゲ草でうもれている田んぼを指さすと、みんなは「水が入っていないし、一面に草が生えているから畑だ。」と返事した。子どもが畑と言った中にどんなものがあるのか見つけさせた。

(資料①)



谷垣 紗世

(資料②)



有馬 梨紗

からレンゲ草・ジゴクノカマノフタといった草や、なかには鹿の糞まで見つけた子どももいた。そのうち何人かの子どもは、切ったわらや稲の切り株を発見した。さっそくそれらをみんなに示したが、それでも「昔は田んぼだったが、いまは畑になっている。」となかなか考えを変えない。母親の実家で米作りを手伝ったことがある浦辻君は、「もうすぐ水が入って、どろどろの田んぼになると思う。だっておじいちゃんの田んぼだって、どろどろやもん。」と言ったが、みんなの支持を得ることはできなかった。

このことは後で確かめることにして、土はかたくて黒い色をしていることを最後におさえて、その時の田の様子をスケッチさせ（資料①）、「お米はいつごろ、どこに作られるのか、また来ようね。」と言って、その日は帰ることにした。

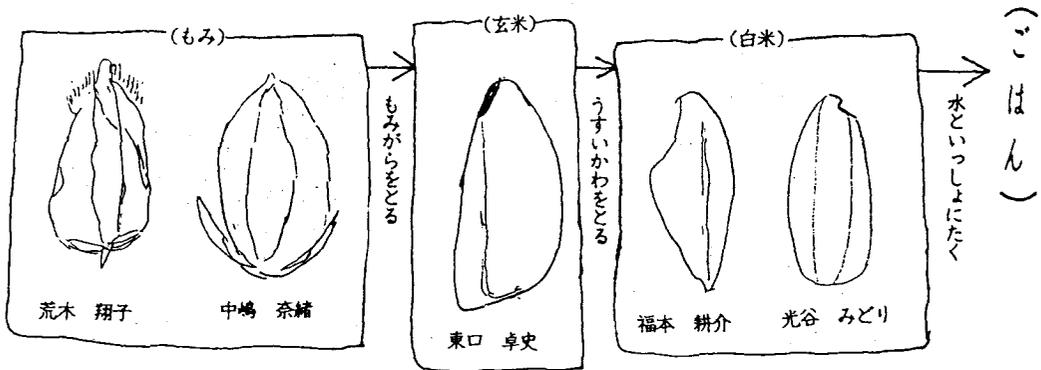
5月12日に田おこしされた水田を見学に行っても、まだ大半のこどもたちは畑だと思っているようだ。学級園の土をおこしてヒマワリを植えた時のことを思い出したようで、野菜を育てるためにうねもつくってあると言う子どももいた。「畑に植えてあったレンゲ草はどこにいったのだろうか。」と不思議がる子どもも何人かいた。横の田ん

ぼの一部にビニールの覆いをして水がはってある苗代を見せても、「あっ、野菜が作ってある。」  
「イチゴとちがうかな。」と言って、苗代には気づかないようだ。田植えや稲刈りといった場面を知っている子どもはたくさんいても、年間を通じて水田の中でどんなふうに米が作られていくのかを知っている子どもは意外と少ないんだなあと考えさせられた。この日も、土の様子がどう変わったかスケッチさせた(資料②)。かたかった土がおこされてくだかれ、うねのようにされたことにはどの子どもも気づいたようである。

5. 「ごはんをまいて米になるの?」

水田の景観と仕事を追う一方で、米そのものを教える授業も並行して考えた。まず、教室に炊いたご飯を持ち込み、みんなに食べさせた。そこで、「ご飯は、田んぼで作ってるの?」と聞くと、「田んぼでつくっているのはお米や。」「お米を炊いてご飯になるんや。」と、口々に声が上がった。なかには、「もみ」や「玄米」といった言葉を使っている子どももいた。そこで、もみと玄米と白米を配り、呼び名を確認し、どの順に、どんな仕事加わって形が変わっていくのか考えさせた。「白米」はすぐ出たが、「玄米」と「もみ」はやや出にくかった。もみから玄米になるところでは、実際にもみがらをとらせてみた。子どもたちは、「本当に玄米が出てきた。」と大騒ぎだ。それぞれ形や色をスケッチしたり(資料③)、かじってかたさや味を確かめたりしながら、「もみ」「げんまい」「白米」という言葉も教えていった。

(資料③)



次の授業では、苗を育てるためには、もみ、玄米、白米、ご飯のうち、どれを土にまいて芽を出させているのか実際に植えてみた。もみと玄米とに子どもの意見は分かれた。白米とご飯はすぐにくさってしまったのだが、教師の予想に反して真先に玄米が発芽し、続いてもみが発芽した。しかし、発芽した後玄米もやがてくさってしまった。ここで、特に苗としてまかれるもみのことをたねもみということも教えた。そして、このたねもみがまかれているところが、以前にみんなが野菜が植えてあるところとかんちがいしたところで、苗代と呼ばれていることもその後の見学で教えた。

6. 田植えておもしろいよ

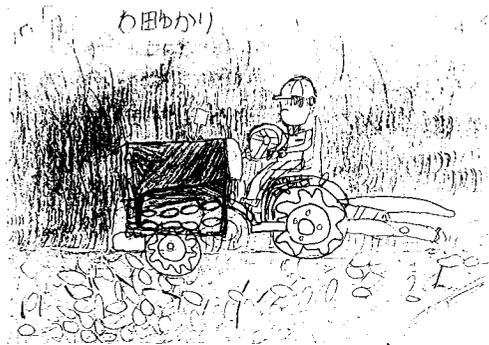
6月4日には、しろかきを見に行くことになっていたが、小嶋さんの水田に向かう途中で今回見学できていなかった田おこし(あらおこし)も他の水田でみることができた(資料④)。

小嶋さんの水田に着くと、小嶋さんはトラクターを使って水の入った田んぼの土をまぜ、ならしていた(資料⑤)。田おこしの次にこのしろかきの仕事をするということをおさえた。また、田お

こしと同じトラクターという機械を使っているが、機械に取りつけてある後ろの部分が違うことと、している仕事の違いも同時に子どもたちに気づかせた。子どもたちは、水の入った水田を見て、これは田んぼにまちがないとやっと納得した。

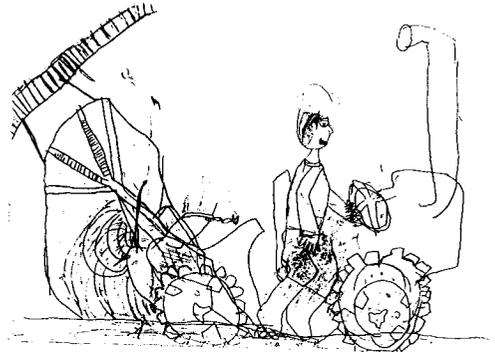
前もってどんなことを質問したいか、子どもは考えてきていたので次々に尋ねていく。「どこから水を引いたのか」「使っている道具の名前は」「一番しんどい仕事は」「いつ田植えをするのか」などと続く中に、4月に見たレンゲ草が見えないことにこだわっていたある子どもは、「レンゲ草をどうやってぬきましたか」と聞き、「耕す時に土にまじってこやしになるんだよ」と小嶋さんから答えをもらい、やっと納得したようだ。

(資料④)



和田 有可里

(資料⑤)



北村 晴子

2年生でも見学の際には、何を見るのか、何を尋ねるのかといった視点を子どもに持たせてのぞみたいと考えている。景観の様子を、特に土と水にかかわって見学させてきたが、ここでは、今までと違って水が入り、土もどろどろにかきまぜながら平らにされていることに注目させた。

ついで小嶋さんから「土を平らにするのは、ちょうどみんなが深いプールに入ってアップアップするのと同じように、苗が水の中に沈んでしまわないためだよ。」と話をきいた。そのあとで、子どもたちは、田んぼの中に入れてもらうことになった。「足がくすぐったかったよ。」「土がにゅるにゅるしたけど、ちゃんと底があったよ。」などと声をあげていた。

田植えは6月6日に見ることができた(資料⑥)。その様子をスケッチした後、「何本ずつ植えるのか」「水がなくなることはあるのか」「刈り取りまでどんな仕事があるのか」など尋ねた。植える苗の本数については、ぜひ注目させたいところだ。それは、稲という植物は株が分けつしていき、

(資料⑥)

収穫時にはたくさんの米を実らせるからだ。稲刈りの前に株がいくつに分けつしたか数えてみるとよくわかるだろう。最後に子どもたちは、田んぼのすみに田植えをさせてもらった。

子どもたちが植えた苗は、すぐ浮いてしまった。植えるというより、苗を土の上に置いていたからだ。小嶋さんから、「ぎゅっと土の中に差し込むんだよ。」と教えてもらいやり直した。

田植えの後の授業では、見学してきたことをまとめながら、水をたえずためるために、あぜぬり



大西 真梨子

という仕事を繰り返していることに注目させた。朝、水がたまっても昼ごろ見に行くと、モグラが穴をあけたり、あぜにひび割れがはいったりして、全部水がぬけていることもあり、穴をつめ、またあぜぬりをするという話を話し、あぜぬりに使う鍬などを見せて、田植えが終わった後もこんな仕事があるんだよとまとめた。

#### 7. 1学期の実践を終えて

学んだことをすぐ生活の場でひろげたり、比べたり、応用したりするのは子どもに特に顕著にあらわれる気がする。その後の何人かの日記には、家の近くの水田にも目をむけたものが多く見られた。「この田んぼはまだ田植えをしていないけれど、水を入れて土もたがやしてあるので、もうすぐ田植えをします。」「この田んぼはもう田植えがすんでいます。苗も小嶋さんのところより大きくのびています。」「この前トラクターでしろかきをしているところを見ました。」「小嶋さんところとおなじような機械を使って、田植えをしていました。」

課題としては、社会認識と自然認識の両方に関わった総合的な題材が実践できないか考えている。例えば、「田んぼ」という題材で、米作りの仕事と水に住む生き物を扱うことができないかといった試みである。また、学んだことをどう豊かに表現するかも多様に考えてみたい。図工科との関わりも考えられるところである。

ただ、生活科を進めた中心の文部省の中野重人氏自身が最近の研究会で「黙って見ているだけではだめ。先生は教えなければならない」「指導案の中にも評価を」と言葉を変えてきたように、“活動中心の教えない生活科”のいきつく先は明らかになってきた。低学年の教科構成を考え合わせると、自然認識と社会認識の基礎を養うのが生活科の目標だと考えているが、教師が教えたいものを、子どもが学びたいものになる授業を創造していくことが、今、求められていると思う。

どの子にも豊かな労働認識の基礎を「田んぼで働く人（2年生）」をとりあげて

## 1年の教育課程

		4 月	5 月	6 月
生 活	社会	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">がっこうたんけん</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものをさがそう(1)</li> <li>・たんけん発表会(1)</li> <li>・学校オリエンテーリング(1)</li> </ul>		<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">ぼくわたしと学校ではたらく人</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きゅうしょくばのしごと(3)</li> <li>・ようむいんさんのしごと(1)</li> </ul>
	自然	(自然のたんけん春のくさばな) <ul style="list-style-type: none"> <li>・たんぼぼ</li> <li>・あさがおのたねまき、春のたねまき</li> <li>・あさがおのかんさつ(ふたば)</li> <li>・からすのえんどう</li> <li>・たねあつめ</li> </ul>		(どうぶつ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうぶつえん</li> <li>・春のくさばな</li> <li>・しろつめぐさ</li> <li>・おおぼこ</li> <li>・あさがお(くきと本芽)</li> </ul>

		7 月	8 月	9 月
生 活	社会	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">たち</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほけんしつ(1)</li> <li>・ぼく・わたしたちのがっこうをつくろう(2)</li> </ul>		(夏休み後発表会) <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会などで旅行の発表をしよう</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">ぼく・わたしのかぞく</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かぞくしらべ(1)</li> <li>・かぞく紹介(1)</li> </ul>
	自然	(小さな虫・どうぶつ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・だんご虫・かたつむりをかう</li> <li>・あさがおのつぼみと花</li> </ul>		(なつのくさばな) <ul style="list-style-type: none"> <li>・つゆくさ</li> <li>・あさがおの花</li> <li>・あきのくさばな①(花とたね)</li> <li>・めひしば</li> <li>・あさがお</li> <li>・たて</li> </ul>

		10 月	11 月	12 月
生 活	社会	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">おうちの人のしごと</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「しごと」ってなに?(1)</li> <li>・カレーをつくるお母さん(4)</li> <li>・せんたく(2)</li> <li>・おうちの中のしごとしらべ(2)</li> <li>・つとめるお父さん・お母さん(2)</li> </ul>		
	自然	(くさはらの虫さがし) <ul style="list-style-type: none"> <li>・あきのくさばな①(つづき)</li> <li>・くつつたね(おなもみ他)</li> <li>・きゅうこん(川と石)</li> <li>・丸い石、すな</li> </ul>	(あきのくさばな②) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ころがるたね(くぬぎ、かし他)</li> <li>・とぶたね(かえて、まつ他)</li> <li>・色づく木の葉(さくら、いちよう、かえて)</li> <li>〔光とかけ〕</li> <li>・かけあそび</li> </ul>	(うごくおもちゃ①) <ul style="list-style-type: none"> <li>・かぜでうごくもの(かざぐるま他)</li> </ul>

		1 月	2 月	3 月
生 活	社会	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">ちずたんけん</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からおうちまで(2)</li> <li>・新聞紙で作るめいろう地図(2)</li> <li>・地図たんけん(6)(校外学習4時間)</li> </ul>		<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">ぼく・わたしのせいちょう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼく・わたしのせいちょう(2)</li> </ul>
	自然	(うごくおもちゃ②) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴムでうごくもの(かえるのピョン、ロケットなど)</li> <li>〔こおり〕</li> <li>・こおりさがし</li> <li>〔じしゃくとてつ〕</li> <li>・じしゃく</li> <li>・じしゃくとてつ</li> </ul>	(早い春のくさばな) <ul style="list-style-type: none"> <li>・おおいぬのふぐり</li> <li>・たんぼぼ</li> <li>・ほとけのぎ</li> <li>・てつさがし</li> <li>・かなものてつ</li> </ul>	(わたしの菌) <ul style="list-style-type: none"> <li>・菌のはたらきとはえかわり</li> </ul>

## 2年の教育課程

		4 月	5 月	6 月
生	社 会	お父さん・お母さんのしごと(2) ・しごと調べ2 田や畑、海、工場、店、のり ものなどのしごと のうかのしごと一米づくりⅠ(3) ・田や畑でつくられるもの	・いちばんたくさん食べる「米」 ごはん←米(白米)←米(玄 米)←もみ←稲 ・土づくり、なえづくり 乳牛を育てるのうかのしごと(8) ・見学計画、見学	のうかのしごと一米づくりⅡ田植え(7) 田植えのしごと ・見学一稲の成長を見る 田んぼのカレンダーをつくる
	自 然	はるのはな(5) ・花のめしべさがし5 チューリップ、サクラ、ナズ ナ、タンポポ ・わたしの町の自然(1) ヒマワリの種をまく1	たねさがし(4) ・小さい種をさがそう4 ナズナ、タンポポ、シロツメグ サ、レンゲ、カラスノエンドウ ヒマワリのふたばと本芽(1) イネの種と芽(1) 球根を植えよう(1)	水にすむ生きもの(8) ・ザリガニの体とくらし4 ・ザリガニとり2 ・ザリガニの体と動き2 ・カエルさがし (注・時期は、ザリガニ、カタツム リ、昆虫で、ずれることもある。)
		7 月	8 月	9 月
生	社 会	木を育てる(野菜でもよい)(1) ・視聴覚教材を利用してすすめる	稲の成長の記録をつける	魚をとるしごと(4) ・かつおの一本づくり ・いかつり ・さんま漁 ・港での市場、卸し売り市場
	自 然	カタツムリ(3) ・カタツムリさがし1 ・カタツムリの口さがし2 ヒマワリ(3) ・ヒマワリの育ちと花1 ・土の成分、土づくり2	イネの花を見る イネ	草むらの虫(6) ・バッタとカマキリ 虫とり2 バッタ、カマキリの体とくらし4
		10 月	11 月	12 月
生	社 会	のうかのしごと一米づくりⅢ稲刈り(6) ・稲刈りのしごと ・1粒のたねもみを、千粒の米に ふやすおじさんのしごと ・田んぼカレンダーづくり 工場のしごと(10) ・うどん工場 見学計画、見学作文	工場のしごと ・うどん工場 経験のいるしごと、おじさん のねが ・パン工場	工場のしごと ・まとめ 原料を加工して製品にする 機械や人が大事な役割をする
	自 然	植物のたね(5) ・ダイコン、アブラナの種まき1 ・ヒマワリ、イネの種と一生4 音あそび(7) ・音づくりストロー紙笛2 ・楽器しらべ2	・音さがし1 ・音をつたえるもの一糸でんわ2 くうき(5) ・くうきさがし2	・くうきはばしょをしめる2 ・くうきをつかってあそぶ1
		1 月	2 月	3 月
生	社 会	人やものをほこぶしごと(10) ・バスの運転手さん6	人やものをほこぶしごと ・郵便をはいたつするおじさん4	のうかのしごと一米づくりⅣ(4) 土づくり ・見学 ・1年ののうかのしごと
	自 然	まめでんきゅうとかんでんち(10) ・まめ電球をつける4 ・金属とまめでんきゅう3 ・おもちゃづくり3	やじるべ(2) ・やじるべえづくり2	たいようとかげ(2) ・方位 わたしの体(2) ・食べものゆくえ2